

プラスチック製容器包装に 係る再商品手法検討会 (ヒアリング項目の整理)

2010年4月12日

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク事務局

中井八千代



プラマークを適正に！

分別方法⇒店頭回収の強化＋自治体回収。

- 見え易く、分かり易いマークを適正に。
- 資源になります。▪簡単に汚れを落としてリサイクルに出して下さい等のメッセージを！

回収頻度⇒地域により違う住宅事情など。

東京は週1回が定着。



リサイクルに適さない物は作らない！

分別の高度化⇒メーカーの努力が不可欠

- ・汚れが落ちやすい形状と材質。

- ・塩ビや複合素材等、

- リサイクルに不向きな素材は使わない。

有効な普及啓発⇒分別でどんな製品になるのかなど**資源のゆくえの見える化！**

再商品化手法⇒消費者には見えていない。

店頭回収の強化を！

品質の向上⇒店頭回収(トレー・ペットボトル等)の強化+資源化努力が報われるしくみ。

事業者→リサイクルの総コスト低減につながる、事業者の自主的取り組みの支援措置など。

消費者→ポイントなど。

2. 店頭回収以外の容器包装プラ等→利用用途に応じて選別・洗滌し、適切に資源化する。(自治体は回収のみ→再商品化事業者が実施)

・リサイクルに不向きなものには課徴金をかける。

他の主体への要望

- 事業者：環境配慮設計をする。収集・選別費用も製品価格に含め、買って使う人がリサイクル費用を負担するしくみにする。(受益者負担)
- 自治体：廃棄物会計を消費者に分かり易く公表する。
自治体内の事業者に、店頭回収を強く働きかける。
- 国：販売は全国スタンダード。容器包装リサイクルも全国統一にし、安定した取り組みにする。
循環基本法の趣旨に則り、拡大生産者責任に基づいたリサイクルシステムを法制化する。



まず 発生抑制 !

1. 事業者：
 - ・トレーはなるべく使わない。
 - ・着色したトレーは使わない。
 - ・店頭回収を徹底する。

2. 環境負荷の削減⇒まず発生抑制 !

- ①環境配慮設計の徹底。
- ②再使用・再生利用の推進。

要望①環境配慮設計の義務化。

1. 国が、容器包装等の削減指針による事業者の**環境配慮設計を義務化**し、第二次循環基本計画の「1人1日ごみ排出量を2015年に2000年比▲10%」を強化すべき。

(2000年の1185g▲10%は1067g。⇔ところが1985年は982g。)

2. レジ袋や使い捨て用品の**無料配布を禁止**する。



要望②使い捨て容器は止める！

3. 教育機関や官公庁では、使い捨て容器の利用を止める。

リユース容器の使用を促進する。



手法のみではなく、**ライフスタイル**に着目したLCAを！

1. **チューブ類や複合素材の容器**などのリサイクルについて、LCAで検証して欲しい。
2. **学校牛乳**について、「紙パックとストロー」、「リユースびん」のLCA比較をして欲しい。
3. **大学生協**が販売する飲料容器（含**リユース容器**）について、回収まで含めたLCA比較を出して欲しい。
4. イベントでの**リユース食器**のLCA検証をして欲しい。

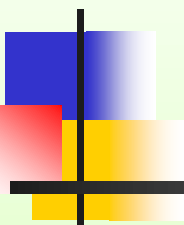
ごみゼロ社会

gomi zero shakai

大量浪費社会

taiyo rohhi shakai

【添付資料①】



容器包装リサイクル法では
ごみが減らない

ごみが減らない問題①

1. 第一次「循環基本計画」(2003年3月14日閣議決定)では、「1人1日の家庭排出ごみ量」(事業系+資源回収を除く)を『2000年の「654g」から、2010年までに▲20%削減』が閣議決定されました。

⇒ところが、目標の半分しか実現できていません。

2. 第二次「循環基本計画」進捗点検結果
(2010年3月5日閣議決定)

・2007年→「586g」(2000年比▲10.4%)

⇒計画どおりには、「ごみが減らない」ので、第二次循環基本計画(2008年3月25日閣議決定)で、**目達年度が2015年に先送りされてしまいました。**

ごみが減らない問題②

3. そもそも、容リ法ではごみが減らないのです。

- 大量生産・消費→大量リサイクルの制度なので、「発生抑制」効果はほとんど無く、プラスチックが、大量に使用され続けています。
- さらに、「プラ」の分別収集にはお金がかかるため、自治体の、完全実施は、なかなか進まず、膨大な「プラ」が、ごみのまま、処理されます。
- 実施の場合でも、市民には、分別の判断が難しく、その上、汚れた「プラ」は、ごみ処理になっています。
- そもそも、「販売数を減らさなくとも、容器ごみを減らせるリユース」を冷遇する、制度の根幹(税負担リサイクル回収)を見直さないと、ごみは減らないのです！